



# 火起こし（舞ざり式）

## 1 ねらい

- ・ 火の使用について、先人の知恵や苦勞を知り、火の起こる仕組みを学ばせる。
- ・ 火を起こす喜びを体感し、火の大切さやありがたさを理解させる。

**2 所要時間** 1.25 時間程度

**3 活動人数** 120人程度（最大24セット、1グループ4～6人）

**4 活動場所** 食堂下ピロティ

※焼き板1. 25時間と組み合わせて2. 5時間で活動することもできます。

**5 参加者の服装および準備物** 長そで、長ズボン(夏も)、下靴、軍手、帽子

## 6 活動の流れ

活動の流れ(時間)	活動内容	留意点
1 全体説明 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動についての流れの説明を聞く。</li> <li>・火起こしのデモンストレーションを見る。</li> </ul>	
2 用具の配布 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸し出し用具の点検(数量・破損等)をする。 (火起こし器、火きり板、麻ひも、台紙)</li> </ul>	先端部がきちんとセットされているか、火きり板に使える火きりうす(くぼみ)があるか確認させる。
3 火起こし体験 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・麻ひもをほぐして、火口をつくる。</li> <li>・火きり板に火起こし器の先端を合わせ、ハンドルを上下させて軸を回転させる。</li> <li>・はじめはゆっくりと回転させ、煙が出始めたら速度を上げる。</li> <li>・火種が出来たら火口の上へのせる。</li> <li>・火口を火ばさみで挟んで、細く長い息を吹きかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火きり板を押さえる者(足で)と火起こし器を操作する者に分かれ安定した状態で作業をおこなわせる。</li> <li>・火起こし器を回転させる時は、押す時に力を入れ、戻す時は反動を利用させる。</li> <li>・火きり板、火起こし器の先端は熱くなるのでさわらないよう注意する。</li> <li>・煙が出てからも火種ができるまで連続しておこなわせる。</li> <li>・数量、破損等の確認をさせる。</li> </ul>
4 片づけ		
5 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の点検を受ける。</li> <li>・まとめの話を聞く。</li> </ul>	

## 7 留意事項

- ・ 軍手や帽子を着用し、やけどには十分注意する。
- ・ 火起こしと焼き板を組み合わせた活動も考えられる。